

見所

第26回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会

注意 写真とコメントの紹介は、注目選手の中、2大会連続で選抜されている選手に限る。

組手A級男子無差別級（選抜8名）

2015年度JTAランキング上位8名によってフルコンタクト・テコンドー王者を決める。

本年度より組手男子無差別級は、A級とB級とに分けられ、1回戦からレベルの高い選手同士の激闘が期待される。

優勝候補筆頭は、第24回全日本FT大会男子無差別級を制した倉田 剛（千葉柏テコンドークラブ）。

100kgあった体重をしばり、2回目の優勝を目指す。念願の千葉柏TCを創設し心身共に充実している。

対抗馬は鈴木雅博（湘南平塚テコンドークラブ）。第19回全日本FT大会男子無差別級を制した後、プロキックボクシングに進出したが、湘南平塚TCの承継クラブ長となり心機一転、倉田同様、2回目の優勝を目指している。

両者は本年度予選会・第18回東京都テコンドー選手権大会決勝戦において熱戦を展開し会場を熱狂させた。

観戦していた河明生会長をして「近年、稀に見るベストファイト！」と称賛されており、決勝戦での対決を期待したい。

倉田写真
コメント

鈴木写真
コメント

組手女子無差別級（選抜・推薦10名）

昨年度、第25回全日本FT大会においてあらゆる格闘技に精通している手塚栄司氏（ゴールドジム創業者）を唸らせ、『ファイト&ライフ』にも特集される等、最も注目されているのが女子無差別級組手である。

注目は、市坪 愛（東京江東テコンドークラブ）の前人未踏の4連覇達成にある。

市坪は横浜市立大学体育会テコンドー一部在学中に全日本FT大会に出場して以来、全日本FT大会では無敗である。

これは市坪が本番に強い精神力を有しているからであろう。初の選手宣誓もあり波に乗る可能性が高い。

対抗馬は、2015年度A級蹴士の前根奏子（横浜市立大学体育会テコンドー一部）である。

2015年度予選会において一部女子組手および一部型（男女混合）の「ダブル優勝」を5大会連続で達成し、

過去前例のない5大会連続の最優秀選手賞に輝いている。予選会では市坪とも対決し判定勝ちしている。

精神面の波の克服が課題と言え、ベテランの高伶香（武蔵小杉テコンドークラブ）が立ちはだかる。

決勝戦での対決が実現すれば「愛奏時代」の幕開けになるかも知れない。

市坪愛写真
コメント

前根奏子
コメント

蹴武型・男女混合試合（選抜・推薦21名）

蹴武の型は日本 拳道の魂である。本年、聖徳（飛び前蹴りの型）が河明生宗師範によって創始され、有級者蹴武の型7、有段者蹴武の型7、合計14の蹴武型が完成した。

この記念すべき年の蹴武の型チャンピオンに最も近いのが、2連覇中の植田博和（東京江東テコンドークラブ）である。Cブロックの植田を追うのが、Aブロックの大高紀美子（東京江東テコンドークラブ）と前根奏子（横浜市立大学体育会テコンドー部）、Bブロックの西谷慎一郎（東京大森テコンドークラブ）、Dブロックの渡邊智也（岡山大学体育会テコンドー部）である。とくに前根は、本大会指定型の聖徳の完成度が比較的高い。関西大会終了後の合宿「聖徳セミナー」に参加しているからである。

植田写真
コメント

蹴武型・団体戦（選抜・推薦5チーム）

蹴武の型は日本 拳道の魂である。本年、聖徳（飛び前蹴りの型）が河明生宗師範によって創始され、有級者蹴武の型7、有段者蹴武の型7、合計14の蹴武型が完成した。

この記念すべき年の蹴武の型団体戦チャンピオンに最も近いのが、岡山大学体育会テコンドー部（渡邊智也、喜安なるみ、谷本翔平）である。第6回JTA団体戦型蹴美杯および第27回全日本学生テコンドー選手権大会団体戦型の予選における演武は他の追随を許さなかった。死角があるとすれば、両大会での決勝戦で演武した型の出来が予選よりも悪く、本部から命じられた統合チームメンバーの調製および調和であろう。

対抗馬は、愛知県テコンドー連盟（辻 陽介、伊藤岳陽、神谷優希）である。

渡邊智也写真
コメント

組手高校生無差別級（選抜・推薦4名）

最も激戦で予想が難しいのが組手高校生無別級である。全員が優勝候補と言える。

高校卒業後も持続的に努力すれば、将来、必ずこの中から「フルコンタクト・テコンドー王者」が誕生するだろう。昨年度、中学生組手チャンピオンの野原颯太（長崎佐世保テコンドークラブ）が蹴美力では、ややリードしている。

野原颯太写真
コメント

組手壮年部無差別級（選抜・推薦7名）

3年目を迎えた壮年部組手。過去最高の7名が選抜・推薦された。
今後、エントリー選手が増えれば軽量級と無差別級の2階級にわたる予定であり、選手の発憤を期待したい。
宮城良太（神戸六甲テコンドークラブ）の2連覇の可能性が高い。

宮城良太写真
コメント

組手B級男子無差別級（選抜・推薦12名）

本年度より組手男子無差別級は、A級とB級とに分けられる。
B級は、2015年度JTAランキング・ベスト7未満の選手によって争われる。
激戦であるが、平山勝之（神奈川大学湘南校体育会テコンドー部）と芳賀康平（岡山大学体育会テコンドー部）が予選会で一本勝ちしており、やや優勢と言える。

組手中学生女子無差別級（選抜・推薦3名）

2年連続でA級蹴士に選ばれた福島良菜（福岡筑紫野テコンドークラブ）が、やや優勢で2連覇の可能性が高い。
中学卒業後も持続的に努力すれば、将来、必ずこの中から「フルコンタクト・テコンドー女王」が誕生するだろう。

福島良菜写真
コメント

組手中学生男子無差別級（選抜・推薦7名）

激戦で誰が優勝してもおかしくないのが組手中学生無別級である。
予想が最も難しい種目である。
高校進学後も持続的に努力すれば、将来、必ずこの中から「フルコンタクト・テコンドー王者」が誕生するだろう。

組手小学生男子無差別級（選抜・推薦5名）

男子の弱体化が社会問題化している最中、少年部組手試合ほど強い男子を育てる環境はない。
ルールに基づきながら弱い自分を知り、弱さを克服する過程で強い精神力が涵養されること疑いがない。
2015年度、準A級蹴士に選ばれた森 慎治（福岡筑紫野テコンドークラブ）が、蹴美力に秀で優勢である。

森 慎治写真

コメント

蹴武の型 少年少女部（選抜・推薦5名）

本種目の優勝者が長じて修練に励めば必ず将来の「蹴武の型チャンピオン」になれる。
2015年度、準A級蹴士に選ばれた森 慎治（福岡筑紫野テコンドークラブ）が優勢である。
受験を終え復帰した青木隼人（東京江東テコンドークラブ）や神谷優希（愛知大府テコンドークラブ）もあなどれない。

神谷優希写真

コメント